

分類	項目	5カ年計画(5カ年の取組み)	令和4年度の取組み	評価指標
1 作品 ～資料収集・環境管理・保存～	(1) 収集活動の継続	開館以来の収集方針や所蔵内容を踏襲しながら、持続可能な収集活動を目指す。収集対象は、下記の分野に重点を置く。 ○現代の多様性を示す優れた作品 ○地域の美術史を構築する上で欠かせない作品 ○近現代美術史の展開をたどる既存コレクションの充実・補完	①既存コレクションを充実・補完するため、所蔵作家の調査に基づいた作品・関連資料を収集する。 ②各企画展や「guest room」など、当館事業に関わる作家の調査に基づいた作品・関連資料を収集する。	○美術作品の収集内容
	(2) 作品修復、作品保管環境の整備	所蔵作品・資料の管理に必要な保管環境を整備し、必要に応じて作品修復を行う。	①緊急性の高い作品から順次修復を行う。 ②日常的に収蔵庫内の点検・清掃を行い、作品と保管環境の安全を確認する。	○修復作品の内容・選定理由 ○収蔵庫の環境整備状況
	(3) 美術資料・図書の一括管理	当館所蔵の作品及び図書データベースを整備し、開館50周年となる2024年の一般公開を目指す。	①作品データベースの資料作成、精査を行う。 ②図書データベースの資料作成、精査を行う。 ③作品・図書をよりよく運用するための整理を行う。	○データベースの整備と公開に向けた取組みの状況
2 公開 ～調査研究・展覧会～	(1) 新鋭作家の継続的な紹介と評価	企画展やguest roomを通じ、新収蔵や研究発表を見据えた新鋭作家の調査を行う。	①コレクション展における特集展示「guest room第7回展 田中武」、自主企画展「ホログラフィ・アートの先駆者 石井勢津子」、共同企画展「祈りの軌跡・藤原新也展」を開催する。	○作家についての調査内容
	(2) 所蔵作家のアーカイブ整備、研究論文・口頭発表	所蔵作家に関する対面調査、資料収集を蓄積し、研究論文、口頭発表等を行う。	①コレクション展における特集展示「guest room第7回展 田中武」、自主企画展「ホログラフィ・アートの先駆者 石井勢津子」、共同企画展「横尾龍彦 瞑想の彼方」「祈りの軌跡・藤原新也展」の開催にあたり、論文公開や口頭発表を行う。	○研究成果の件数・内容
	(3) 特色ある展覧会(コレクション展・自主企画展)の実現	調査研究に基づいたテーマ性の豊かなコレクション展や自主企画展を開催する。	①テーマの異なる3つのコレクション展(「没後30年 平野遼」「ひろがるイマジネーション」「浮世絵に見る江戸の名所」)を開催する。 ②地元ゆかりのある作家の共同企画展として「横尾龍彦 瞑想の彼方」を開催する。 ③現代作家を紹介する自主企画展として「ホログラフィ・アートの先駆者 石井勢津子」を、共同企画展として「祈りの軌跡・藤原新也展」を開催する。	○企画の内容
	(4) 他館や他機関と共同企画の実施	他館、他機関と協同し、連携企画展や共同調査を行う。	①神奈川県立近代美術館、埼玉県立近代美術館と共同で企画展「横尾龍彦 瞑想の彼方」を開催する。 ②北九州市立文学館、世田谷美術館と共同で企画展「祈りの軌跡・藤原新也展」を開催する。 ③東京都美術館、神戸市博物館と共同で企画展「スコットランド国立美術館 THE GREATS 美の巨匠たち」を開催する。	○連携の件数・内容
3 交流 ～教育普及・地域交流～	(1) 学校と連携した学習プログラムの実施	教育現場や教育委員会と連携し、小中学生等が美術に触れ、楽しむ機会を広げる事業を実施する。	①引き続き全市立小学校と特別支援学校3年生を対象に「ミュージアム・ツアー」を実施し、対話型鑑賞を実践する。 ②市内の私立・国立の小学3年生についても「ミュージアム・ツアー」への参加を促す。	○参加校の満足度 ○実施状況
	(2) 特色あるワークショップ・講演会の実現	子どもから大人まで幅広い年齢層を対象にしたワークショップ、講演会、ギャラリートーク等を実施する。 また、複数年にわたり継続した市民参加型のアート・プロジェクトを実施する。	①コロナ禍社会に対応したワークショップを実施する。 ②長期ワークショップ「ぬいかけの植物園計画室」を実施する。	○参加者の満足度
	(3) ボランティア組織の充実	現代の社会状況に対応した、独自の自立型のボランティア制度を構築する。	①プロジェクト班、鑑賞サポート班、美術情報班の3班に分かれたボランティア活動を支援する。 ②ボランティア活動を充実させるための情報提供・研修を行う。	○ボランティア制度の運営状況
	(4) 他館や他機関との連携	他館、他機関との連携を促進し、同時に連携の内容を工夫する。	①北九州芸術劇場と協力し、コレクションをテーマとした演劇公演「画狂老人@北斎」を行う。 ②北九州市立文学館と連携し、「祈りの軌跡・藤原新也展」を同時開催する。	○参加者の満足度
4 広報 ～利用促進のための情報発信～	(1) 現代社会に対応したマーケティング、広報戦略	展覧会等の傾向や予想される観客層などを分析し、SNS等も活用した効果的な広報活動を行う。 また、外国人向けの広報も充実させる。	①新型コロナウイルス感染症対策のため、アンケート調査が難しい現状を現状を踏まえ、美術館に対する市民のニーズ、展覧会等の傾向や観客層等を分析する方法を検討する。 ②SNSを活用した広報を充実させる。 ③市民に対するPRを充実させるため引き続き市民センター(136館)に利用を働きかける。 ④外国人向けの広報については、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえて行う。	○分析方法の検討内容 ○SNSの活用状況 ○市民センターの活用状況
	(2) 他館や他機関との連携	来館促進のための連携先の確保と、連携の内容を工夫する。 また、美術館友の会の活用を図る。	①他施設(例:小倉城等の観光施設)と連携した共通チケット販売や広報を行い来館促進を図る。 ②美術館友の会会報誌による展覧会情報等の発信に努める。	○連携の件数・内容
5 環境 ～快適なアメニティ空間の演出～	(1) ミュージアム機能・設備の強化	美術館内外の環境について、館の安全確保と適正管理に努める。 また、ホスピタリティマインドの向上に努め、市民に開かれた美術館を目指す。加えて、老朽化が進んでいるアネックス棟の整備計画の検討を行う。	①本館身障者用エレベータ更新工事を実施する。 ②アネックス棟の整備計画を検討し、予算の確保に努める。 ③所蔵作品の適正管理のため、収蔵庫の燻蒸を行う。 ④警備、清掃、受付・監視等の現場会議を行う。 ⑤老朽化に伴う事故を防止するため、建物(建築・設備・消防等)点検を徹底する。 ⑥来館者サービス向上のため、カード決済について、本市全体での取り組みや当館での電子マネーの状況を踏まえてさらに充実させる。 ⑦美術館友の会と連携し、ミュージアムショップの充実に努める。	○実施状況